

浅草公園 或シナリオ

blueskybook

浅草公園 或シナリオ::芥川 竜之介::ブルースカイブックス

浅草公園 或シナリオ

芥川 竜之介

1

浅草（あさくさ）の仁王門（におうもん）の中に吊（つ）った、火のともらない大提灯（おおじょうちん）。提灯は次第に上へあがり、雑沓（ざつとう）した仲店（なかみせ）を見渡すようになる。ただし大提灯の下部だけは消え失せない。門の前に飛びかう無数の鳩（はと）。

2

雷門（かみなりもん）から縦に見た仲店。正面にはるかに仁王門が見える。樹木は皆枯れ木ばかり。

3

仲店の片側（かたがわ）。外套（がいとう）を着た男が一人（ひとり）、十二三歳の少年と一しょにぶらぶら仲店を歩いている。少年は父親の手を離れ、時々玩具屋（おもちゃや）の前に立ち止まったりする。父親は勿論こう云う少年を時々叱ったりしないことはない。が、稀（まれ）には彼自身も少年のいることを忘れたように帽子屋（ぼうしや）の飾り窓などを眺めている。

4

こう云う親子の上半身（じょうはんしん）。父親はいかにも田舎者（いなかももの）らしい、無精髭（ぶしょうひげ）を伸ばした男。少年は可愛（かわい）いと云うよりもむしろ可憐な顔をしている。彼等の後（うし）ろには雑沓した仲店。彼等はこちらへ歩いて来る。

5

斜めに見たある玩具屋（おもちゃや）の店。少年はこの店の前に佇（たたず）んだまま、綱を上（のぼ）ったり下（お）りたりする玩具の猿を眺めている。玩具屋の店の中には誰も見えない。少年の姿は膝の上まで。

6

綱を上ったり下りたりしている猿。猿は燕尾服（えんびふく）の尾を垂れた上、シルク・ハットを仰向（あおむ）けにかぶっている。この綱や猿の後ろは深い暗のあるばかり。

7

この玩具屋のある仲店の片側。猿を見ていた少年は急に父親のいないことに気がつき、きょろきょろあたりを見まわしはじめる。それから向うに何か見つけ、その方へ一散（いっさん）に走って行（ゆ）く。

[浅草公園 或シナリオのP1 2 3 4 5 6 > >|](#) 1/12ページ

浅草公園 或シナリオ::芥川 竜之介::ブルースカイボックス

浅草公園 或シナリオ 芥川 竜之介

8

父親らしい男の後ろ姿。ただしこれも膝の上まで。少年はこの男に追いつき、しっかりと外套の袖を捉（とら）える。驚いてふり返った男の顔は生憎（あいにく）田舎者（いなかも）らしい父親ではない。綺麗（きれい）に口髭（くちひげ）の手入れをした、都会人らしい紳士である。少年の顔に往来する失望や当惑に満ちた表情。紳士は少年を残したまま、さっさと向うへ行ってしまう。少年は遠い雷門（かみなりもん）を後ろにぼんやり一人佇んでいる。

9

もう一度父親らしい後ろ姿。ただし今度は上半身（じょうはんしん）。少年はこの男に追いついて恐る恐るその顔を見上げる。彼等の向うには仁王門（におうもん）。

10 [#「10」は縦中横]

この男の前を向いた顔。彼は、マスクに口を蔽（おお）った、人間よりも、動物に近い顔をしている。何か悪意の感ぜられる微笑（びしょう）。

11 [#「11」は縦中横]

仲店の片側。少年はこの男を見送ったまま、途方（とほう）に暮れたように佇んでいる。父親の姿はどちらを眺めても、生憎（あいにく）目にははいらぬらしい。少年はちょっと考えた後（のち）、当（あて）どもなしに歩きはじめる。いずれも洋装をした少女が二人、彼をふり返ったのも知らないように。

12 [#「12」は縦中横]

目金（めがね）屋の店の飾り窓。近眼鏡（きんがんきょう）、遠眼鏡（えんがんきょう）、双眼鏡（そうがんきょう）、廓大鏡（かくだいきょう）、顕微鏡（けんびきょう）、塵除（ちりよ）け目金（めがね）などの並んだ中に西洋人の人形（にんぎょう）の首が一つ、目金をかけて頬笑（ほほえ）んでいる。その窓の前に佇（たたず）んだ少年の後姿（うしろすがた）。ただし斜（なな）めに後ろから見た上半身。人形の首はおのずから人間の首になってしまう。のみならずこう少年に話しかける。――

13 [#「13」は縦中横]

「目金を買っておかけなさい。お父さんを見付（みつけ）るには目金をかけるのに限りますからね。」

「僕の目は病気ではないよ。」

14 [#「14」は縦中横]

斜めに見た造花屋（ぞうかや）の飾り窓。造花は皆竹籠だの、瀬戸物の鉢だのの中に開いている。中でも一番大きいのは左にある鬼百合（おにゆり）の花。飾り窓の板硝子（ガラス）は少年の上半身を映しはじめる。何か幽霊のようにぼんやりと。

[< 浅草公園 或シナリオのP2 3 4 5 6 7 >](#) 2/12ページ

浅草公園 或シナリオ::芥川 竜之介::ブルースカイボックス

浅草公園 或シナリオ 芥川 竜之介

15 [#「15」は縦中横]

飾り窓の板硝子越しに造花を隔てた少年の上半身。少年は板硝子に手を当てている。そのうちに息の当るせいか、顔だけぼんやりと曇ってしまう。

16 [#「16」は縦中横]

飾り窓の中の鬼百合の花。ただし後ろは暗である。鬼百合の花の下に垂れている蒼（つばみ）もいつか次第に開きはじめる。

17 [#「17」は縦中横]

「わたしの美しさを御覧なさい。」
「だってお前は造花じゃないか？」

18 [#「18」は縦中横]

角（かど）から見た煙草屋の飾り窓。巻煙草の缶（かん）、葉巻の箱、パイプなどの並んだ中に斜めに札（ふだ）が一枚懸っている。この札に書いてあるのは、——「煙草の煙は天国の門です。」徐（おもむ）ろにパイプから立ち昇（のぼ）る煙。

19 [#「19」は縦中横]

煙の満ち充ちた飾り窓の正面（しょうめん）。少年はこの右に佇（たたず）んでいる。ただしこれも膝の上まで。煙の中にはぼんやりと城が三つ浮かびはじめる。城は Three Castles の商標を立体にしたものに近い。

20 [#「20」は縦中横]

それ等の城の一つ。この城の門には兵卒が一人銃を持って佇んでいる。そのまた鉄格子（てつごうし）の門の向うには棕櫚（しゅろ）が何本もそよいでいる。

21 [#「21」は縦中横]

この城の門の上。そこには横にいつの間（ま）にかこう云う文句が浮かび始める。——
「この門に入るものは英雄となるべし。」

浅草公園 或シナリオ::芥川 竜之介::ブルースカイボックス

浅草公園 或シナリオ 芥川 竜之介

22 [#「22」は縦中横]

こちらへ歩いて来る少年の姿。前の煙草屋の飾り窓は斜めに少年の後ろに立っている。少年はちょっとふり返って見た後（のち）、さっさとまた歩いて行ってしまう。

23 [#「23」は縦中横]

吊（つ）り鐘（がね）だけ見える鐘楼（しゅろう）の内部。撞木（しゅもく）は誰かの手に綱を引かれ、徐（おもむ）ろに鐘を鳴らしはじめる。一度、二度、三度、——鐘楼の外は松の木ばかり。

24 [#「24」は縦中横]

斜めに見た射撃屋（しゃげきや）の店。的（まと）は後ろに巻煙草の箱を積み、前に博多人形（はかたにんぎょう）を並べている。手前に並んだ空気銃の一行。人形の一つはドレスをつけ、扇を持った西洋人の女である。少年は怯（お）ず怯（お）ずこの店には入り、空気銃を一つとり上げて全然無分別（むふんべつ）に的（まと）を狙（ねら）う。射撃屋の店には誰もいない。少年の姿は膝の上まで。

25 [#「25」は縦中横]

西洋人の女の人形。人形は静かに扇をひろげ、すっかり顔を隠してしまう。それからこの人形に中（あた）るコルクの弾丸（たま）。人形は勿論仰向（あおむ）けに倒れる。人形の後ろにも暗のあるばかり。

26 [#「26」は縦中横]

前の射撃屋の店。少年はまた空気銃をとり上げ、今度は熱心に的（まと）を狙う。三発、四発、五発、——しかし的は一つも落ちない。少年は渋（し）ぶ渋（し）ぶ銀貨を出し、店の外へ行ってしまう。

27 [#「27」は縦中横]

始めはただ薄暗い中に四角いもの見えるばかり。その中にこの四角いものは突然電燈をともしたと見え、横にこう云う字を浮かび上（あが）らせる。——上に「公園六区（ろっく）」下に「夜警詰所（やけいつめしょ）」。上のは黒い中に白、下のは黒い中に赤である。

28 [# 「28」は縦中横]

劇場の裏の上部。火のともった窓が一つ見える。まっ直（すぐ）に雨樋（あまどい）をおろした壁にはいろいろのポスタアの剥（は）がれた痕（あと）。

29 [# 「29」は縦中横]

[◀ 23 浅草公園 或シナリオのP456789 ▶](#) 4/12ページ

浅草公園 或シナリオ::芥川 竜之介::ブルースカイボックス

浅草公園 或シナリオ 芥川 竜之介

この劇場の裏の下部（かぶ）。少年はそこに佇（たたず）んだまま、しばらくはどちらへも行（ゆ）こうとしない。それから高い窓を見上げる。が、窓には誰も見えない。ただ遅（たくま）しいブルテリアが一匹、少年の足もとを通過して行く。少年の匂（におい）を嗅（か）いで見ながら。

30 [#「30」は縦中横]

同じ劇場の裏の上部。火のともった窓には踊り子が一人現れ、冷淡に目の下の往来を眺める。この姿は勿論（もちろん）逆光線のために顔などははっきりとわからない。が、いつか少年に似た、可憐（かれん）な顔を現してしまう。踊り子は静かに窓をあけ、小さい花束（はなたば）を下に投げる。

31 [#「31」は縦中横]

往来に立った少年の足もと。小さい花束が一つ落ちて来る。少年の手はこれを拾う。花束は往来を離れるが早いか、いつか茨（いばら）の束に変わっている。

32 [#「32」は縦中横]

黒い一枚の掲示板（けいじばん）。掲示板は「北の風、晴」と言う字をチョオクに現している。が、それはぼんやりとなり、「南の風強かるべし。雨模様」と言う字になってしまう。

33 [#「33」は縦中横]

斜（ななめ）に見た標札屋（ひょうさつや）の露店（ろてん）、天幕（てんと）の下に並んだ見本は徳川家康（とくがわいえやす）、二宮尊徳（にのみやそんとく）、渡辺崋山（わたなべかざん）、近藤勇（こんどういさみ）、近松門左衛門（ちかまつもんざえもん）などの名を並べている。こう言う名前もいつの間（ま）にか有り来りの名前になってしまう。のみならずそれ等の標札の向うにかすかに浮んで来る南瓜畠（かぼちゃばたけ）……

34 [#「34」は縦中横]

池の向うに並んだ何軒かの映画館。池には勿論電燈の影が幾つともなしに映っている。池の左に立った少年の上半身（じょうはんしん）。少年の帽は咄嗟（とっさ）の間（あいだ）に風のために池へ飛んでしまう。少年はいろいろあせった後（のち）、こちらを向いて歩きはじめる。ほとんど絶望に近い表情。

35 [#「35」は縦中横]

カフェの飾り窓。砂糖の塔、生菓子（なまがし）、麦藁（むぎわら）のパイプを入れた曹達水（ソオダすい）のコップなどの向うに人かげが幾つも動いている。少年はこの飾り窓の前へ通りかかり、飾り窓の左に足を止めてしまう。少年の姿は膝の上まで。

36 [#「36」は縦中横]

このカフェの外部。夫婦らしい中年の男女（なんによ）が二人硝子（ガラス）戸の中へはいつて行く。女はマントルを着た子供を抱（だ）いている。そのうちにカフェはおのずからまわり、コック部屋の裏を現わしてしまう。コック部屋の裏には煙突（えんとつ）が一本。そこにはまた労働者が二人せっせとシャベルを動かしている。カンテラを一つともしたまま。……

[≪ 2 3 4 浅草公園 或シナリオのP5 6 7 8 9 10 ≫](#) 5/12ページ

浅草公園 或シナリオ::芥川 竜之介::ブルースカイボックス

浅草公園 或シナリオ 芥川 竜之介

37 [#「37」は縦中横]

テーブルの前の子供椅子（いす）の上に上半身を見せた前の子供。子供はにこにこ笑いながら、首を振ったり手を挙げたりしている。子供の後ろには何も見えない。そこへいつか薔薇（ばら）の花が一つずつ静かに落ちはじめる。

38 [#「38」は縦中横]

斜めに見える自動計算器。計算器の前には手が二つしきりなしに動いている。勿論女の手に違いない。それから絶えず開かれる抽斗（ひきだし）。抽斗の中は銭（ぜに）ばかりである。

39 [#「39」は縦中横]

前のカフェの飾り窓。少年の姿も変りはない。しばらくの後（のち）、少年は徐（おもむ）ろに振り返り、足早（あしばや）にこちらへ歩いて来る。が、顔ばかりになった時、ちょっと立ちどまって何かを見る。多少驚きに近い表情。

40 [#「40」は縦中横]

人だかりのまん中に立った糶（せ）り商人（あきゅうど）。彼は呉服（ごふく）ものをひろげた中に立ち、一本の帯をふりながら、熱心に人だかりに呼びかけている。

41 [#「41」は縦中横]

彼の手を持った一本の帯。帯は前後左右に振られながら、片はしを二三尺現している。帯の様は廓大（かくだい）した雪片（せっぺん）。雪片は次第にまわりながら、くるくる帯の外へも落ちはじめる。

42 [#「42」は縦中横]

メリヤス屋の露店（ろてん）。シャツやズボン下を吊（つ）った下に婆（ばあ）さんが一人行火（あんか）に当たっている。婆さんの前にもメリヤス類。毛糸の編みものも交（まじ）っていないことはない。行火の裾（すそ）には黒猫が一匹時々前足を嘗（な）めている。

43 [#「43」は縦中横]

行火の裾に坐っている黒猫。左に少年の下半身（かはんしん）も見える。黒猫も始めは変りはない。しかしいつか頭の上に流蘇（ふさ）の長いトルコ帽をかぶっている。

44 [# 「44」は縦中横]

[◀ 2 3 4 5 浅草公園 或シナリオのP6 7 8 9 10 11 ▶](#) 6/12ページ

浅草公園 或シナリオ::芥川 竜之介::ブルースカイボックス

浅草公園 或シナリオ 芥川 竜之介

「坊ちゃん、スウェエタアを一つお買いなさい。」

「僕は帽子さえ買えないんだよ。」

45 [#「45」は縦中横]

メリヤス屋の露店を後ろにした、疲れたらしい少年の上半身（じょうはんしん）。少年は涙を流しはじめる。が、やっと気を取り直し、高い空を見上げながら、もう一度こちらへ歩きはじめる。

46 [#「46」は縦中横]

かすかに星のかがやいた夜空。そこへ大きい顔が一つおのずからぼんやりと浮かんで来る。顔は少年の父親らしい。愛情はこもっているものの、何か無限にももの悲しい表情。しかしこの顔もしばらくの後（のち）、霧のようにどこかへ消えてしまう。

47 [#「47」は縦中横]

縦（たて）に見た往来。少年はこちらへ後（うし）ろを見せたまま、この往来を歩いて行（ゆ）く。往来は余り人通りはない。少年の後ろから歩いて行く男。この男はちょっと振り返り、マスクをかけた顔を見せる。少年は一度も後ろを見ない。

48 [#「48」は縦中横]

斜めに見た格子戸（こうしど）造りの家の外部。家の前には人力車（じんりきしゃ）が三台後ろ向きに止まっている。人通りはやはり沢山ない。角隠（つのかく）しをつけた花嫁（はなよめ）が一人、何人かの人々と一しょに格子戸を出、静かに前的人力車に乗る。人力車は三台とも人を乗せると、花嫁を先に走って行く。そのあとから少年の後ろ姿。格子戸の家の前に立った人々は勿論少年に目もやらない。

49 [#「49」は縦中横]

「XYZ会社特製品、迷い子、文芸的映画」と書いた長方形の板。これもこの板を前後にしたサンドウィッチ・マンに変わってしまう。サンドウィッチ・マンは年をとっているものの、どこか仲店（なかみせ）を歩いていた、都会人らしい紳士に似ている。後ろは前よりも人通りは多い、いろいろの店の並んだ往来。少年はそこを通りかかり、サンドウィッチ・マンの配（くば）っている広告を一枚貰って行く。

50 [# 「50」は縦中横]

縦に見た前の往来。松葉杖をついた癡兵（はいへい）が一人ゆっくりと向うへ歩いて行（ゆ）く。癡兵はいつか駝鳥（だちょう）に変わっている。が、しばらく歩いて行くうちにまた癡兵になってしまう。横町（よこちょう）の角（かど）にはポストが一つ。

51 [# 「51」は縦中横]

「急げ。急げ。いつ何時（なんどき）死ぬかも知れない。」

[< 2 3 4 5 6 浅草公園 或シナリオのP7 8 9 10 11 >](#) 7/12ページ

浅草公園 或シナリオ::芥川 竜之介::ブルースカイボックス

浅草公園 或シナリオ 芥川 竜之介

52 [#「52」は縦中横]

往来の角（かど）に立っているポスト。ポストはいつか透明になり、無数の手紙の折り重なった円筒の内部を現して見せる。が、見る見る前のようにただのポストになってしまう。ポストの後ろには暗のあるばかり。

53 [#「53」は縦中横]

斜めに見た芸者屋町（げいしゃやまち）。お座敷へ出る芸者が二人（ふたり）ある御神燈（ごしんとう）のともった格子戸（こうしど）を出、静かにこちらへ歩いて来る。どちらも何（なん）の表情も見せない。二人の芸者の通りすぎた後（のち）、向うへ歩いて行（ゆ）く少年の姿。少年はちょっとふり返って見る。前よりもさらに寂しい表情。少年はだんだん小さくなって行く。そこへ向うに立っていた、背（せ）の低い声色遣（こわいろつか）いが一人（ひとり）やはりこちらへ歩いて来る。彼の目（ま）のあたりへ近づいたのを見ると、どこか少年に似ていないことはない。

54 [#「54」は縦中横]

大きい針金（はりかね）の環（わ）のまわりにぐるりと何本もぶら下げたかもじ。かもじの中には「すき毛入り前髪（まえがみ）立て」と書いた札（ふだ）も下っている。これ等のかもじはいつの間（ま）にか理髪店の棒になってしまう。棒の後ろにも暗のあるばかり。

55 [#「55」は縦中横]

理髪店の外部。大きい窓硝子（ガラス）の向うには男女（なんによ）が何人も動いている。少年はそこへ通りかかり、ちょっと内部を覗（のぞ）いて見る。

56 [#「56」は縦中横]

頭を刈（か）っている男の横顔。これもしばらくたった後、大きい針金の環（わ）にぶら下げた何本かのかもじになってしまう。かもじの中に下った札（ふだ）が一枚。札には今度は「入れ毛」と書いてある。

57 [#「57」は縦中横]

セセッション風に出来上った病院。少年はこちらから歩み寄り、石の階段を登って行（ゆ）く、しかし戸の中へはいったと思うと、すぐにまた階段を下（くだ）って来る。少年の左へ行った後（のち）、病院は静かにこちらへ近づき、とうとう玄関だけになってしまう。その硝子戸（ガラスど）を押しあけて外へ出て来る看護婦（かんごふ）が一人。看護婦は玄関に佇（たたず）んだまま、何か遠いものを眺めている。

58 [#「58」は縦中横]

膝の上に組んだ看護婦の両手。前になった左の手には婚約の指環が一つはまっている。が、指環はおのずから急に下へ落ちてしまう。

59 [#「59」は縦中横]

[< 3 4 5 6 7 浅草公園 或シナリオのP8 9 10 11 >](#) 8/12ページ

浅草公園 或シナリオ::芥川 竜之介::ブルースカイボックス

浅草公園 或シナリオ 芥川 竜之介

わずかに空を残したコンクリートの塀。これもおのずから透明（とうめい）になり、鉄格子（てつごうし）の中に群（むらが）った何匹かの猿を現して見せる。それからまた塀全体は操（あやつ）り人形（にんぎょう）の舞台になってしまう。舞台はとにかく西洋じみた室内。そこに西洋人の人形が一つ怯（お）ず怯（お）ずあたりを窺（うかが）っている。覆面（ふくめん）をかけているのを見ると、この室へ忍びこんだ盗人（ぬすびと）らしい。室の隅には金庫が一つ。

60 [#「60」は縦中横]

金庫をこじあけている西洋人の人形。ただしこの人形の手足についた、細い糸も何本かははっきりと見える。……

61 [#「61」は縦中横]

斜めに見た前のコンクリートの塀。塀はもう何も現していない。そこを通りすぎる少年の影。そのあとから今度は背むしの影。

62 [#「62」は縦中横]

前から斜めに見おろした往来。往来の上には落ち葉が一枚風に吹かれてまわっている。そこへまた舞い下（さが）って来る前よりも小さい落葉が一枚。最後に雑誌の広告らしい紙も一枚翻（ひるがえ）って来る。紙は生憎（あいにく）引き裂（さ）かれているらしい。が、はっきりと見えるのは「生活、正月号」と云う初号活字である。

63 [#「63」は縦中横]

大きい常磐木（ときわぎ）の下にあるベンチ。木々の向うに見えているのは前の池の一部らしい。少年はそこへ歩み寄り、がっかりしたように腰をかける。それから涙を拭（ぬぐ）いはじめめる。すると前の背むしが一人やはりベンチへ来て腰をかける。時々風に揺（ゆ）れる後（うし）ろの常磐木。少年はふと背むしを見つめる。が、背むしはふり返りもしない。のみならず懐（ふところ）から焼き芋を出し、がつがつしているように食いはじめめる。

64 [#「64」は縦中横]

焼き芋（いも）を食っている背むしの顔。

65 [#「65」は縦中横]

前の常磐木（ときわぎ）のかげにあるベンチ。背むしはやはり焼き芋を食っている。少年はやっと立ち上り、頭を垂れてどこかへ歩いて行（ゆ）く。

66 [#「66」は縦中横]

斜めに上から見おろしたベンチ。板を透かしたベンチの上には墓口（がまぐち）が一つ残っている。すると誰かの手が一つそっとその墓口をとり上げてしまう。

浅草公園 或シナリオ::芥川 竜之介::ブルースカイボックス

浅草公園 或シナリオ 芥川 竜之介

67 [#「67」は縦中横]

前の常磐木のかげにあるベンチ。ただし今度は斜めになっている。ベンチの上には背むしが一人墓口の中を検(しら)べている。そのうちにいつか背むしの左右に背むしが何人も現れはじめ、とうとうしまいにはベンチの上は背むしばかりになってしまう。しかも彼等は同じようにそれぞれ皆熱心に墓口の中を検べている。互に何か話し合いながら。

68 [#「68」は縦中横]

写真屋の飾り窓。男女(なんによ)の写真が何枚もそれぞれ額縁(がくぶち)にはいつて懸(かか)っている。が、それ等の男女の顔もいつか老人に変わってしまう。しかしその中にたった一枚、フロック・コウトに勲章をつけた、鬚髭(あごひげ)のある老人の半身だけは変わらない。ただその顔はいつの間(ま)にか前の背むしの顔になっている。

69 [#「69」は縦中横]

横から見た観音堂(かんのどう)。少年はその下を歩いて行(ゆ)く。観音堂の上には三日月(みかづき)が一つ。

70 [#「70」は縦中横]

観音堂の正面の一部。ただし扉(とびら)はしまっている。その前に礼拝(らいはい)している何人かの人々。少年はそこへ歩みより、こちらへ後ろを見せたまま、ちょっと観音堂を仰いで見る。それから突然こちらを向き、さっさと斜めに歩いて行ってしまう。

71 [#「71」は縦中横]

斜めに上から見おろした、大きい長方形の手水鉢(ちょうずばち)。柄杓(ひしゃく)が何本も浮かんだ水には火(ほ)かげもちらちら映っている。そこへまた映って来る、憔悴(しょうすい)し切った少年の顔。

72 [#「72」は縦中横]

大きい石燈籠(いしどうろう)の下部。少年はそこに腰をおろし、両手に顔を隠して泣きはじめる。

73 [# 「73」は縦中横]

前の石燈籠の下部の後ろ。男が一人佇（たたず）んだまま、何かに耳を傾けている。

74 [# 「74」は縦中横]

[◀ 5 6 7 8 9 浅草公園 或シナリオのP10 11 ▶](#) 10/12ページ

浅草公園 或シナリオ::芥川 竜之介::ブルースカイボックス

浅草公園 或シナリオ 芥川 竜之介

この男の上半身。もっとも顔だけはこちらを向いていない。が、静かに振り返ったのを見ると、マスクをかけた前の男である。のみならずその顔もしばらくの後（のち）、少年の父親になってしまう。

75 [#「75」は縦中横]

前の石燈籠の上部。石燈籠は柱を残したまま、おのずから炎（ほのお）になって燃え上がってしまう。炎の下火（したび）になった後（のち）、そこに開き始める菊の花が一輪。菊の花は石燈籠の笠よりも大きい。

76 [#「76」は縦中横]

前の石燈籠の下部。少年は前と変りはない。そこへ帽を目深（まぶか）にかぶった巡査（じゅんさ）が一人歩みより、少年の肩へ手をかける。少年は驚いて立ち上り、何か巡査と話をする。それから巡査に手を引かれたまま、静かに向うへ歩いて行（ゆ）く。

77 [#「77」は縦中横]

前の石燈籠の下部の後ろ。今度はもう誰もいない。

78 [#「78」は縦中横]

前の仁王門（におうもん）の大提灯（おおじょうちん）。大提灯は次第に上へあがり、前のように仲店（なかみせ）を見渡すようになる。ただし大提灯の下部だけは消え失（う）せない。

（昭和二年三月十四日）

浅草公園 或シナリオ::芥川 竜之介::ブルースカイボックス

浅草公園 或シナリオ

芥川 竜之介

底本：「芥川龍之介全集6」ちくま文庫、筑摩書房

1987（昭和62）年3月24日第1刷発行

1993（平成5）年2月25日第6刷発行

底本の親本：「筑摩全集類聚版芥川龍之介全集」筑摩書房

1971（昭和46）年3月?1971（昭和46）年11月

入力：j.utiyama

校正：かとうかおり

1998年4月20日公開

2004年3月7日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、[青空文庫 \(http://www.aozora.gr.jp/\)](http://www.aozora.gr.jp/) で作られました。

。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

●表記について

このファイルは W3C 勧告 XHTML1.1 にそった形式で作成されています。

[#...] は、入力者による注を表す記号です。

傍点や圏点、傍線の付いた文字は、強調表示にしました。